



News Letter

7

昭和女子大学 現代ビジネス研究所 | ----- | ニュースレター |

Greeting

人口高齢化をビジネスチャンスに

昭和女子大学現代ビジネス研究所
所長 八代 尚宏

日本の人口全体が減るなかで高齢者数だけは増え続けており、人口に占める65歳以上高齢者の比率は、2017年1月現在でついに30%を超した。これは年金や医療等、社会保障給付費の膨張を通じて、政府の財政に大きな負担をかける要因となる。

しかし、民間の視点で見れば、増え続ける高齢者層は、購買力の豊かな顧客が持続的に増加することを意味する。このシニア層に焦点をあてれば、多くのビジネスチャンスが広がっており、その典型例が介護サービスである。これまで高齢者保護の観点から厳しく規制されていた介護サービスにも規制改革の波が押し寄せている。介護保険と併用する保険外サービスの価格を自由化する「選択的介護」が東京都で検討されている。

こうしたシニア市場に限らず、多様なビジネスモデルを発掘し、それを活用する道を考えることも、企業や行政機関等で働くビジネスパーソンにとって大きな刺激となる。それを関係する大学教員や学生有志と協力して、様々なプロジェクトが実施されている。ここで現役女子大学生のフレッシュな感性や発想力と、企業現場の経験豊富な研究員との組み合わせは、多くの成果を生んでいる。これをさらに促進し、大学発ベンチャーに結び付けることが、現代ビジネス研究所の大きな目標といえる。



Project

「キャリアマイインターンシッププロジェクト」始動!

キャリアマイインターンシップは、昭和女子大学がキャリア教育の一環として実施する有償のインターンシップ制度です。現代ビジネス研究所がプロジェクトを立ち上げ、2016年度後期に試行期間としてスタートしました。

昭和小学校のアフタースクールを定期利用する児童を学生が自宅まで送り届け、保護者が帰宅するまでの間、子どもの遊び相手や身の回りの世話をします。児童・保護者とのコミュニケーションを通して、仕事と子育ての両立の実態を知り、将来のキャリアを考える貴重な機会となっています。

2016年度後期は37名の学生が事前研修を受け、13名が実際に活動を始めました。限られた時間に夫婦でどう家事・子育てを分担するか等、多くの学びを得ているようです。

大学が取り組む帰宅支援サービスは珍しく、先進事例がありません。日本経済新聞(12/14)、朝日新聞(3/8)にも大きく取り上げられました。

現代ビジネス研究所では2017年度の本格稼働に向け、様々な課題を解決しながら提供しやすく受けやすい体制を整備したいと考えます。



昭和女子大学 現代ビジネス研究所 | 2016年(平成28年)12月14日(木曜日)

お迎え・お世話

昭和女子大学のキャリアマイインターンシッププロジェクト

私がやります

仕事と育児、両立体験

昭和女子大学のキャリアマイインターンシッププロジェクトは、昭和女子大学の学生が、昭和小学校のアフタースクールを定期利用する児童を自宅まで送り届け、保護者が帰宅するまでの間、子どもの遊び相手や身の回りの世話をします。児童・保護者とのコミュニケーションを通して、仕事と子育ての両立の実態を知り、将来のキャリアを考える貴重な機会となっています。

昭和女子大学のキャリアマイインターンシッププロジェクトは、昭和女子大学の学生が、昭和小学校のアフタースクールを定期利用する児童を自宅まで送り届け、保護者が帰宅するまでの間、子どもの遊び相手や身の回りの世話をします。児童・保護者とのコミュニケーションを通して、仕事と子育ての両立の実態を知り、将来のキャリアを考える貴重な機会となっています。

▶ 公開講座

「就職するなら“健康経営”企業だ！」

第1部：講演「健康経営の推進に向けて」

第2部：パネルディスカッション

「就職するなら“健康経営”企業だ！」

日時：2017年1月21日(土) 15:30～17:00

場所：80年館西棟コスモスホール

講師：経済産業省ヘルスケア産業課長
江崎 禎英氏

ブラック企業や長時間労働、過剰なサービス残業などが社会問題となり、劣悪な労働環境を原因とする従業員の自殺や過労死などの労働災害が相次いだことを背景に、今、「健康経営」という考え方が注目を集めている。「健康経営」とは何か。「健康経営」は企業にどのようなメリットをもたらすのか。そして、企業に対して、この「健康経営」をどのように浸透させていくのか。経済産業省ヘルスケア産業課長の江崎禎英氏をお招きし、ご講演いただいた。

まず、「健康経営」とは、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することである。また、企業理念に基づき、従業員等への健康保持・増進に取り組むことは、下記のようなメリットを生むと期待されている。

- ①従業員の活力向上や生産性の向上
- ②従業員の健康増進による医療費などの経費削減
- ③安全で快適な働きやすい職場環境整備による企業イメージの向上
- ④企業イメージ向上による優秀な人材採用の促進 など

この「健康経営」に対する企業の取組を支援する動きも広がっている。

経済産業省は東京証券取引所と共同で、一業種一社を「健康経営銘柄」として選定し、公表することで、企業の健康経営の取組が株式市場等において、適切に評価される仕組みづくりに取り組んでいる。

また、「健康経営」の更なる裾野拡大に向け、東京証券取引所上場会社のみならず、地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業、医療法人等の法人を顕彰する新たな制度として、「健康経営優良法人認定制度」を設立した。これに併せ、健康経営アドバイザー等を通じたノウハウの提供や地銀、信金等民間企業による低金利融資や人材関連企業からの人材確保支援など、今後は認定企業へのインセンティブをさらに充実させていくという。

「全国高齢者20年の追跡調査」において、女性が手段の日常生活動作において援助なく自立を生涯続けられる秘訣として、江崎氏より興味深い話があった。それは①「肉食女子」であること、②恋愛をすることである。できるだけ「不健康寿命」(平均寿命と健康寿命の差)は短くし、健やかに楽しい日々を過ごしたいものである。(文責：研究員 滝澤智導)



秋桜祭

3回目の秋桜祭(昭和女子大学文化祭)参加となった今年度は、各研究員の研究やプロジェクトを紹介するパネル展示と共に、新たな企画として「お仕事ナビ・カフェ」を開催しました。卒業後の進路が気になる学生に立ち寄ってもらい、各種業界の経験豊かな研究員と、お茶を飲みながら気軽におしゃべりしてもらおうという試みです。お目当ての業種の話だけでなく、社会全般の話にも花が咲き、大変賑やかな2日間となりました。



日時：2016年11月12日(土)、13日(日) 10:00～16:00

会場：80年館西棟5S43教室および現代ビジネス研究所



▶ 研究セミナー

「昭和女子大学×資生堂 共創プロジェクト — 新たな商品価値の創造を目指して —」

セミナーでは、2年間のプロジェクト成果が発表された。

まず資生堂末川久幸相談役から、資生堂の概要とプロジェクトの背景について説明があった。今回のプロジェクトは、与那国島産の長命草を原材料とする資生堂の健康食品「長命草（ドリンク、タブレット、パウダー）」の新たな価値の創造と、ターゲット層ごとにフォーカスした販売方法の提案を目的としている。

次に七野公一ヘルスケア事業部長より、2年間の取り組みを通して、①視野の拡大、②企業との協働、③社会人としての人生デザインを学生に学んでもらうことを目指した、との説明があった。学生の成長とともに、資生堂にとっても新しい「気づき」があったと報告された。

後半は、プロジェクト参加学生から活動報告とプロジェクトの成果の発表があった。1年目は与那国島に行って生産者に会い、商品のバックストーリーを知り、その結果与那国島を女子大生に広めることを目標として、学園祭出展・アンケート・有用性試験・与那国DAYS（学内イベント）を実施した。2年目は、更にターゲットを女性全体に広めることを目標として、フォーカスグループインタビュー・三茶子育てフェスタでのアンケート・店舗調査・ペルソナマーケティングに基づく販売方法の提案に取り組んだ。

ヘルスケア商品は得てして、生産者や商品開発者側は成分効能に寄ってしまうが、消費者から見ると商品の持つバックグラウンドストーリーや消費者側の課題（美容）に寄った提案が好ましいとわかり、時代に合わせてリブランディングすると共に、切り口を変えていくマーケティングが大切であることがわかった。

最後に八代尚宏現代ビジネス研究所所長が、長命草が沖縄の主要農産物であるサトウキビの売上を抜いたことに触れ、TPPを見据え日本が競争力のある農作物を創ることに大いに貢献しており、注目に値すると講評された。（文責：研究員 新井卓二）

日時：2016年12月10日（土）16:00～17:30
会場：学園本部館中会議室



研究員サロン

現代ビジネス研究所では、年間を通して「研究員サロン」を開催しています。助成金採択者の中間発表や、研究員独自の研究報告、また本学教員による専門分野についてのレクチャーなど、内容は多岐に渡ります。

| 開催日 | テーマ | 発表者 |
|-------|--|---|
| 10/6 | ポスター発表の方法 | 山田麻衣助教 (ビジネスデザイン学科) |
| 10/22 | オーストラリアの0歳～5歳児の母親向けケア ：日本にないものを中心に | 白田明子研究員 |
| 12/15 | 昭和女子大学生の国際協力に関する意識調査 中間発表 「国際協力をはじめよう」 | 金牧美寿々 (現代教養学科1年) TEE XIN YEE (ビジネスデザイン学科1年) 柳川伸二研究員 |
| 2/15 | 問題意識を明確化し、効果的な調査を行うには | 高木俊雄准教授 (ビジネスデザイン学科) |



2016年度 研究員の活動状況

研究員の皆さまには、研究員サロン等のイベント以外にも、大学でのさまざまな活動にご協力いただいています。

- 2016年度前期および後期授業に外部講師として参加
秋鷹こず恵、秋森陽子、池田清華、岩松二郎、遠藤佳代子、大曾根薫、大本郁子、古田土俊男、崔真淑、齋藤訓之、鈴木清江、竹中哲也、段谷憲、宮脇啓透、渡邊慎一
- 学生のインターンシップ先の紹介
青山大蔵、新井卓二、岩松二郎、熊坂敏彦、古田土俊男、山口理実
- 企画委員として活動
佐野良伸、高橋恵子、滝澤智導、宮脇啓透、村井知光
- その他活動への協力
＜リーダーズアカデミー ファシリテーター＞
新井卓二、大橋重子、高橋恵子、山野浩
＜地域連携センター プロジェクトアドバイザー＞
西村美奈子、山野浩
＜キャリアマインインターンシップ マナー講師＞
鈴木清江
＜キャンパスアテンダント 接遇マナー講師＞
大本郁子、鈴木清江
＜産学連携ダイバーシティ研究会＞
大橋重子、西村美奈子

助成金採択プロジェクト

現代ビジネス研究所では、研究員の研究活動を支援するために、優れた研究に対して研究経費の一部を助成しています。研究員間での共同研究や、本学学生と協働して進めている研究もあります。各プロジェクトチームには本学教員がアドバイザーとして参加し、学生は豊富な実務経験を持つ研究員と協力しながら、実践的な学びを深めています。

今年度の活動報告は2016年度現代ビジネス研究所紀要として現代ビジネス研究所のホームページで公開しており、4月15日には報告会を開催します。

●2016年度研究助成金採択プロジェクト

| 研究員名 | プロジェクト名 |
|--------|---|
| 新井 卓二 | 健康経営と大学生に与える影響について |
| 大本 郁子 | 化粧品ビジネスにおけるコンテンツマーケティング戦略とは ～主にデジタルマーケティングの現場から～ |
| 熊坂 敏彦 | 日本酒のグローバルマーケティング戦略等についての研究(2) |
| 栗原 道明 | 地域包括ケアシステムの進展と女性の視点から見た新規ビジネス可能性の探索 |
| 甲賀 聖士 | ソーシャルビジネスにおける女性参画の実態と「ジェンダー意識」「社会貢献意識」に関する研究 |
| 下村 源治 | リーダー・アプローチによるフォロワーシップの実証実験 |
| 鈴木 宏幸 | インバウンドビジネスにおける新規事業創造プロセスのベストプラクティスの研究 |
| 澄田 知子 | 女性の活躍推進政策に関する女子学生の意識調査 |
| 高田 かおり | 障がい者施設の現場が必要とする意識・知識についての研究 |
| 滝澤 智導 | 「魅力あるまちづくり」を考える ～「女性視点」に立ったまちづくりとは～ |
| 段谷 憲 | 大規模震災発生に備えた食料備蓄に関する研究 |
| 鶴沢 真 | フリマアプリのマーケットデザイン —フリマアプリ(メルカリやフリル)での買い物行動に関するアンケート調査— |
| 西村 美奈子 | ICT企業に働くマチュア世代の女性のセカンドキャリア意識調査とニーズ分析研究 |
| 藤村 成弘 | 規制緩和による産業構造変化 —情報通信産業と電力産業を事例として— |
| 村井 知光 | 企業と非営利組織のパートナーシップ戦略に関する研究 |
| 柳川 伸二 | 昭和女子大学生の国際協力に関する意識調査 |
| 山崎 泰明 | “シングル消費”に関するバズ(口コミ)マーケティングの実証研究 |

「学生ビジネスプランコンテスト」でアイデア賞受賞!

鈴木宏幸研究員、渡辺秀一研究員、原弘和研究員共同のインバウンドビジネス研究プロジェクト(担当教員:磯野彰彦 ビジネスデザイン学科特命教授)の一環として、学生6人が応募した「日本とベトナムを結ぶ『ふるさとハウス』」が、一般財団法人学生サポートセンターの『2016学生ビジネスプランコンテスト』の「アイデア賞」に入選しました。

●参加学生(いずれもビジネスデザイン学科)

- 藤野 真理(3年)
- 廣沢 明佳里(3年)
- 石井 綾乃(1年)
- 橋本 真菜子(1年)
- 原 菜摘(1年)
- ゲン カイン リン(4年)

